

令和 6 年度
課題解決型デジタル活用プロジェクト推進事業
実績報告書

課題解決者：株式会社グッドボタン
課題提供者：全国病児保育協議会和歌山県支部
実証テーマ：病児保育事業の ICT 化及び広域化

1. 病児保育の現状と課題

(1) 病児保育とは

病児保育とは、子どもが病気や回復期にあり、自宅や通常の集団保育施設での保育が難しい場合に、保育所・医療機関等に併設された専用の保育室で一時的に保育や看護的ケアを提供するサービスである。

事業主体は市区町村で、国の「子ども・子育て支援交付金」を活用して運営される。費用負担は国・県・市町村がそれぞれ 1/3 ずつを担う仕組みで、2022 年度末時点で全国に 1,895 か所が設置されている。

2024 年 7 月時点では、和歌山県内に市町村から委託を受けて運営されている病児保育施設が 13 か所あり、その内訳は以下のとおりである。

病児保育施設（※病児対応型）	： 7 施設
病後児保育施設（※病後児対応型）	： 6 施設

病児保育施設

No	所在市町村	名称	実施場所		広域利用 (協定締結市町村)	定員
1	和歌山市	病児保育室ぴょんぴょん	診療所	月山チャイルドケアクリニック	—	6
2	和歌山市	せせらぎの病児保育	診療所	せせらぎクリニック	—	6
3	有田市	病児保育室「きらりん」	病院	有田市立病院	—	3
4	御坊市	病児保育室ひまわり	病院	北出病院	日高町、由良町、美浜町、日高川町、印南町	6
5	田辺市	にじ色ひろば	診療所	あかちゃんとかどものクリニック「Be」	みなべ町、白浜町、上富田町	9
6	有田川町	病児保育室こぐまクラブ	診療所	平山こどもクリニック	湯浅町、広川町	6
7	串本町	串本町病児・病後児保育室ばけっと	病院	くしもと町立病院	—	4
合計						40

病後児保育施設

No	所在市町村	名称	実施場所		広域利用 (協定締結市町村)	定員
1	和歌山市	杭ノ瀬保育所	保育所	(公) 杭ノ瀬保育所	—	4
2	海南市	五月山こども園	こども園	(私) 五月山こども園	—	3
3	海南市	きらら子ども園	こども園	(公) きらら子ども園	—	2
4	海南市	みらい子ども園	こども園	(公) みらい子ども園	—	3
5	橋本市	あやの台保育園	保育所	(私) あやの台保育園	—	2
6	岩出市	病後児保育施設きらら	乳児院	和歌山乳児院	—	3
合計						17

※「病児保育施設きらら」は、2024 年 10 月に病後児保育施設から病児保育施設に移行

(2) 利用状況と課題の整理

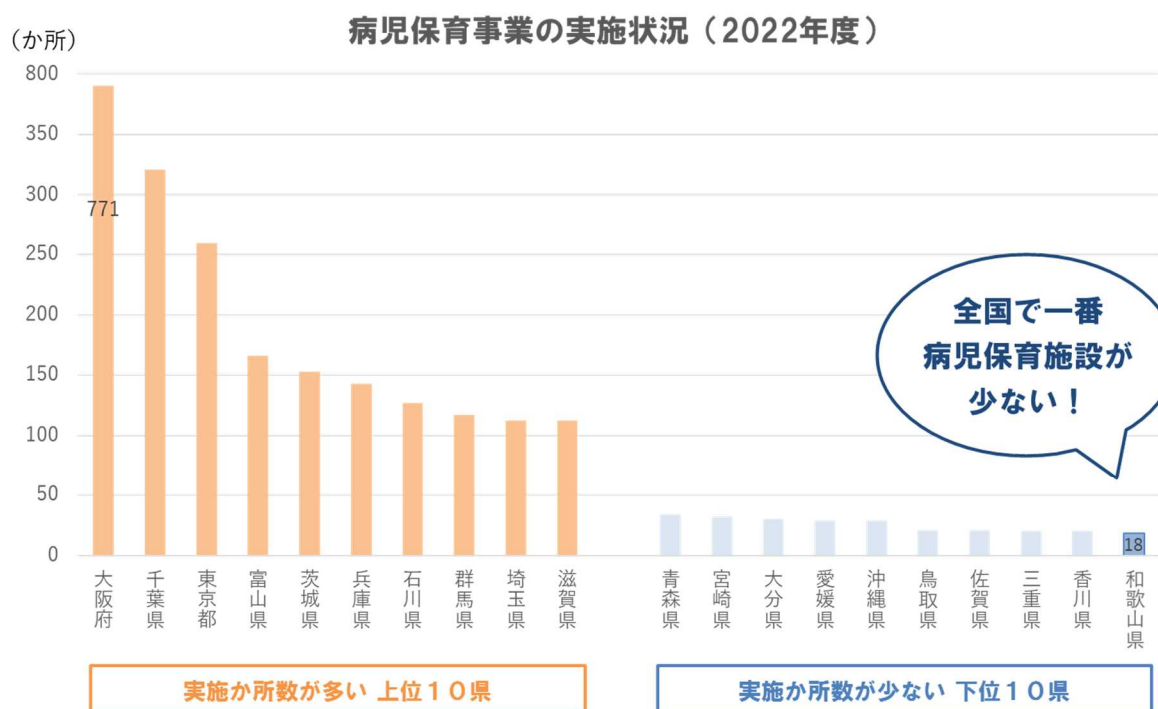
和歌山県内における病児保育施設の利用率（＝病児保育施設の利用者数／病児保育施設の延べ定員×100）は、全国平均（45%程度）と同水準を維持しているが、共働き家庭や核家族が増えている中、病児保育へのニ－

ズが高まってきているという全国的な傾向を踏まえると、保護者が利用しやすい環境を整え、利用率を上昇させていく必要がある。なお、病後児保育施設については、全国平均（16%程度）と比べて極めて低い利用率にとどまっているため、病後児保育施設の利用率向上も今後の課題である（※本実証事業では対象外）。

（和歌山県の病児、病後児保育施設利用率）

年度	病児保育	病後児保育
令和4年度	42.3%	3.4%
令和5年度	46.6%	3.1%

また、2022 年度にこども家庭庁が実施した「延長保育等実施状況調査」によると、本県の病児保育施設は全国で最も少なく（*）、施設数自体を増やすことも課題となっている。



（*）「病児対応型」、「病後児対応型」、「体調不良児対応型」、「非施設型（訪問型）」の合計

(3) 利用率が伸び悩む主な要因

現場ヒアリングや和歌山県が実施したアンケート調査（2024 年 5 月に実施。18,777 人のこどもの保護者に配付し、2,229 人が回答）を分析した結果、利用率が伸び悩む主な要因は以下の 3 つと考えられる。

①利用までの手続きが煩雑で、利用しづらい

空室確認や予約を電話で行わなければならない、また、利用に当たって紙による事前登録や医師連絡票の提出が必要である等、手続きが煩雑で非効率。また、電話が繋がらず利用を諦める保護者や、キャンセルが出ても待機者への繰り上げがスムーズに行われないといったオペレーション上の課題もある。

②自宅の近くに病児保育施設がない

居住市町村内の施設のみ利用できる仕組みが多く、近隣市町村や保護者が勤務している市町村の施設等に空きがあっても、当該施設を利用できない事態が生じている（※一部の病児保育施設では、近隣市町村の住民も受け入れているが、市町村内の住民と市町村外の住民で利用料に差を設けており、市町村内の住民を優先する形をとっている。）。

③病児保育事業（施設）を知らない

病児保育事業（施設）の認知度が低く、保護者がその存在や利用方法を十分に把握していないため、利用に繋がっていない。

(4) 潜在ニーズと制度の持続可能性

病児保育に関して、株式会社グッドボタン（代表取締役 園田正樹）が調査研究したところ、実際の利用者数の 20～30 倍に相当する潜在ニーズがあるとの試算結果となった。よって、現在の低利用率は需要そのものが少ないのではなく、主に上記①～③の要因による“機会損失”と捉えるべきである。利用率（利用者数）の低迷は、施設の委託料減少や赤字経営の常態化を招き、結果的に閉室リスクを高めるといった負のスパイラルに陥ってしまう。実際に全国では毎年数十施設が閉鎖されており、制度を維持・発展させるためには、利用率（利用者数）の増加を図っていく必要がある。

(5) デジタルを活用した課題解決の内容

上記課題の内、①に対しては、株式会社グッドボタンが開発・運営しているクラウド型の病児保育予約サービス「あずかるこちゃん」を活用して病児保育施設の ICT 化を図ることとした。同サービスは、病児保育及び実際の医療現場を熟知した医師と、デザイナー・エンジニアが病児保育の現場スタッフと密に連携して開発・改善を行っているシステムである。全国に展開するクラウドサービスであるため、病児保育施設は初期導入費（税込 38.5 万円）、月額利用料（税込 2.75 万円）と低価格での利用が可能となっている。保護者の利用は無料である。スマートフォンやパソコンから 24 時間いつでも空き状況の確認/予約/キャンセルの依頼が可能で、マップ上で複数施設の位置、空き状況の目安が一目でわかるようにしており、保護者がどの病児保育施設を利用できるか直感的に理解し決断できるように設計している。また、家族連携機能により、家族で同時に通知を受け取ることができ、特定の保護者に負担が集中しない柔軟なやりとりが可能となるだけでなく、予約申込をした全員への一斉リマインド機能により、キャンセルの繰り上げ作業が効率化される。本実証事業の目的は、デジタルを活用した課題解決であるため、本取組が実証事業のメインとなる。

〔「あずかるこちゃん」利用画面〕

The image displays two screenshots of the 'あずかるこちゃん' (Azukarukochan) app interface.

Left Screenshot: User Registration Screen

- Progress Bar:** 01 (連絡先 Eメール) - 02 (URL 送信) - 03 (情報 入力) - 04 (内容 確認) - 05 (作成 完了)
- Section: 利用者情報入力**
ご利用になる保護者の情報を入力してください。
- Section: ご利用になる保護者の情報**
- Form Fields:**
 - 姓 (姓):** 鈴木
 - 名 (名):** 桜子
 - せい (姓):** すずき
 - めい (名):** さくらこ
 - お子様との関係:** 母親
 - その他の場合に入力**

Right Screenshot: Map View

- Map:** Shows a map of the area around 'あずかるこクリニック 病児保育室'.
- Facility Details:**
 - あずかるこクリニック 病児保育室**
 - 今日 09/13 (水):** 空いています
 - 明日 09/14 (木):** 空いています
 - 月～金 8:00～18:00 / 土 (第3のみ) 8:00～16:00**
 - 自宅から 5.6km**
- Buttons:** 利用登録する, 予約する

次に、②に対しては、どの市町村に住んでいても、県内全ての病児保育施設が利用可能となる「広域化」を目指して、市町村や病児保育事業の理解を促進する取り組みを行った。広域化は、全国では、2018年に山梨県が都道府県単位での全域受け入れを開始したことを皮切りに、山口県、大分県などで実施されている。具体的には、2026年4月の制度開始を目標に、市町村へのヒアリングや論点整理を行った上で、制度運用ルール設計を行った。本取組については、2025年度以降の継続案件とする（県ではこども未来課が所管課として引き継ぎ）。

最後に、③に対しては、病児保育制度の存在と利用方法を周知するため、リーフレットの作成・配付等を行った。

（まとめ）

- ①利用までの手続きが煩雑で、利用しづらい → 病児保育施設のICT化
- ②自宅の近くに病児保育施設がない → 病児保育事業の広域化
- ③病児保育事業を知らない → 広報活動

2. 実証事業の概要

(1) 病児保育施設の ICT 化

本取組が実証事業のメインとなるため、本取組において KPI を設定し、詳細な分析を行った。

① 目的

主に次の 2 点の改善により、病児保育施設の利用率向上を図る。

ア) 保護者の利便性向上

夜間でも空き状況を確認でき、スマホからいつでも申し込み・キャンセルができるようにし、従来の電話予約や紙申込に伴う手続き上の負担を軽減する。

イ) 保育現場の業務負荷軽減

電話対応や紙の事前登録などの煩雑な業務プロセスをデジタル化し、スタッフが本来の保育業務に注力できる環境を整える。

② KPI

KPI	基準 (2023年度末)	2024年度末	2025年度末	2026年度末
ICT化施設数	0施設	4施設	7施設	7施設
施設利用率	46.6%	50%	56%	58%

※ICT 化施設数は、「あずかるこちゃん」を導入した病児保育施設数

※施設利用率＝病児保育施設の利用者数／病児保育施設の延べ定員×100

* ICT 化施設だけでなく、県内全病児保育施設の利用率

* KPI とは別に ICT 化施設において「あずかるこちゃん」導入前後の利用者数及び利用率を算定し、効果を検証

③ 実施内容

・説明会開催

県内市町村及び病児保育施設の職員向け ICT 化説明会を 2 回実施
(8 月 28 日／11 月 25 日)

・システム導入

県内病児保育施設 5 施設に「あずかるこちゃん」を導入。

- ・効果検証

導入施設の利用者数や利用率を導入前後で比較し、保護者アンケート及び施設スタッフへのヒアリングにより定量・定性的に検証

- ・今後の展開準備

効果を踏まえ、来年度以降の制度化・他施設への展開に向けたスキーム案を検討。

(2) 病児保育事業の広域化

広域化については、関係者の合意形成に時間を要することから、本実証事業においては、2026 年 4 月の制度開始を目標に、制度運用ルール設計を行うに留まった。

① 目的

居住市町村以外に立地する病児保育施設も利用できるようにすることで、利用者の選択肢を増やし、利用率向上につなげる。

② 実施内容

- ・説明会開催

ICT 化説明会と併せて、広域化の概要と意義を市町村・施設関係者へ周知するための説明会を実施

- ・合意形成支援

広域化にかかる制度の方向性や協定書案を提示し、関係者との調整を実施。

- ・和歌山県における広域化制度の運用ルールを設計

医師連絡票の様式統一、協定金の算定方法、利用優先順位の扱いなど、運用上の細部を県と協議し、制度設計のたたき案を作成

「広域化に向けた和歌山県ルール案」

- 1.病児保育の利用前の登録

利用者が「施設」に「登録」することで県内統一

- 2.予約確定

予約確定時における居住市町村の優先の有無は、市町村ごとに個別に設定

3.利用料金

利用料金は市町村ごとに個別に設定するが、市外・市内の設定（居住地による料金差）はなしで統一

4.医師連絡票

広域化にあたり、医師連絡票の様式を統一

5.減免対象者への対応

- ・減免対応は、全市町村で実施
- ・減免対象者は、子ども・子育て支援交付金の加算がある生活保護世帯、住民税非課税世帯とする
- ・減免申請先は、施設に申請する
- ・減免申請方法は、本人が減免対象となる証明書を提出する

6.協定金の算出方法

- ・「利用者割」を基本とする（利用者 0 人の場合は負担なし）
- ・利用児童 1 人あたり負担額の上限（1 人 2 万円）を設ける
- ・実施市町村（施設のある市町村）は、利用者割を 10%引下げ

7.県外居住者の利用

県外居住者は病児保育を利用できるが、交付金や協定金の対象外

（３）広報活動

病児保育事業の存在自体が知られていないという現状を踏まえ、病児保育の概要を周知するリーフレットを作成し、県内各所に配付した。また、県ウェブサイトの改善提案を行った。

① 目的

病児保育事業（施設）の存在と利用方法を保護者にわかりやすく伝え、事業の認知度向上と、病児保育施設の利用率向上を図る。

② 実施内容

- ・リーフレット・チラシ作成・配布

県が幅広く活用できるリーフレット及び施設ごとのチラシを作成。リ

ーフレットは小児科・市役所・保育所等へ設置・配布し、チラシは合計500部（各施設100部）作成し、周囲の保育所などに配付。

〔リーフレット表面〕

あずかるこちゃんを使った病児保育室の予約方法

病児保育を利用したいタイミングは、ある日突然来ってしまうものです。あらかじめあずかるこちゃんに登録しておけば、急なときでも時間を気にせずスマホから利用の予約ができます。ぜひこの機会にあずかるこちゃんへのアカウント作成をお願いいたします。

※ あずかるこちゃんに登録・利用には使用料・手数料は一切かかりません。ウェブサイトの閲覧やメッセージの送受信など、通信事業者の通信に関わる費用のみがかかります。

あずかるこちゃんは、施設の利用予約を通じて保護者と病児保育室をつなぐサービスです。

あずかるこちゃん
病児保育ネット予約サービス

病児保育をもっと便利に、もっとちかくに



病児保育室ご利用の前に



あずかるこちゃんにアクセスしてアカウントを作成





利用したい施設にこどもの情報を登録
これで準備 OK!

病児保育室を利用したい時に



インターネットで
あずかるこちゃんから
施設を予約申込



病院を受診し、
医師連絡票を取得



施設に入室

リーフレットの発行元

和歌山県 共生社会推進部 こども家庭局 こども未来課 保育班





わかやまけん
和歌山県

和歌山県では、スマホでいつでも病児保育室の空き状況確認や予約ができるなど、病児保育事業の利便性を向上させる取り組みを進めています。こどもと保護者の心強い味方として、ぜひ病児保育をご活用ください！

〔リーフレット裏面〕

病児保育ってなに？

病児とは、風邪などの「入院するほど重篤ではないものの、保育園・学校などを休まなければならない子ども」のこと。病児保育は、そんな病児が安全に1日を過ごして、保護者のみなさんにとっても安心してご利用いただけるサービスです。

どんなときに使える？

子どもが急病のときや、保護者が仕事を休めず、病気の子どもを看病できないときなどにご利用いただけます。

病気はうつらない？

保育室内で感染しないよう、消毒や換気を徹底し、必要に応じて部屋を分けるなどの配慮をしています。

だれがいるの？

病児保育の専門家である保育士や看護師が常駐し、病気のこどもの体調をしっかりとみながら保育します。

利用者の声

フルタイムの仕事をしており、実家が遠方で頼れる人もいなかったため、緊急時に預かってもらえたことが何より助かりました。仕事に行き、翌日以降のスケジュールが調整できるのは大きなメリットです。



Aさん

病気の知識に加え、病児対応のプロフェッショナルが子どもをしっかりとみて寄り添ってくれたので、安心して預けられました。1日の利用料も高くないのが嬉しいです。



Bさん

病児保育を利用された保護者のみなさんからは、もしものとき、近くにある頼れる場所として嬉しい声をいただいています。こどもの体調不良で少しでもお困りでしたら、ぜひ病児保育の利用を選択肢に入れてください。

和歌山県の取り組み

和歌山県では、安心して子育てできる環境を整える取り組みの一環として、病児保育ネット予約サービス「あずかるこちゃん」の導入をはじめ、病児保育事業の利便性を向上させる取り組みを順次進めています。

和歌山県内の病児保育室

順次拡大中

市町村	施設名	住所	定員	予約方法
和歌山市	病児保育室「びよびよん」	和歌山市秋月482-1 月山チャイルドケアクリニック内	6人	あずかるこちゃん
和歌山市	せせらぎの病児保育	和歌山市古屋153-7 せせらぎクリニック隣接	6人	あずかるこちゃん
有田市	病児保育室「きらりん」	有田市宮崎町6番地 有田市立病院敷地内	3人	あずかるこちゃん
有田町	病児保育室「こくまクラブ」	有田町天満305-4 平山こどもクリニック併設	6人	施設に 電話で予約 0737-52-8667
御坊市	病児・病後児保育室ひまわり	御坊市湯川町財部728-4 社会医療法人 黎明会 北出病院内	6人	あずかるこちゃん
田辺市	病児保育 にじ色ひろば	田辺市たきない町32-6 赤いねとこどもクリニック内	9人	あずかるこちゃん
串本町	串本町病児・病後児保育室「ほけっと」	串本町サンゴ台691番地7 くしもと町立病院内	4人	自治体に 電話で予約 0735-67-7027

あずかるこちゃんを導入した施設※では、利用したい日の空き状況がスマホからいつでも簡単に確認できます。また、空き状況の確認に加えて予約申込も可能になります。

※表内の項目「予約方法」が「あずかるこちゃん」と記載されている施設

※上記は、2024年10月1日現在の情報になります。詳細は、和歌山県のウェブサイトをご確認ください。



〈リーフレットの配布先〉

・ 保育所等（134 箇所）	17,434 部
・ 市町村（30 箇所）	3,140 部
・ 振興局・保健所（11 箇所）	550 部
・ こどもまんなか応援団（166 箇所）	1,660 部
・ 医療機関（1,500 箇所）	1,500 部
・ こども未来課保管	1,216 部
合計	25,500 部

〔施設ごとのチラシ ※病児保育室びよんびよんの例〕

もしものときに、頼れるところ。

ご利用ください。 あなたの近くの 病児保育室。

病児保育室 びよんびよん はスマホから簡単に利用の予約ができるようになりました。そのお知らせとともに、あらためて病児保育についてご案内します。

子どもが体調不良で保育室では預かれないときに

「病児」とは、風邪などの入院するほど重篤ではないけれども、保育園では預かれない状態の子どもを指します。病児保育室には、専門家である保育士、看護師が常駐しており、子ども同士の感染を防ぐために、部屋を分けて保育を行います。子どもの体調が悪化した場合には医師が対応することもあります。子どもが病気になる時、おうちの方が安心して預けられるように、病児保育に精通したスタッフがお待ちしています。

**必ず事前に「あずかるこちゃん」から
病児保育室 びよんびよんへの登録を！**

右のQRコードを読み取り、病児保育予約サービスあずかるこちゃんからアカウント作成して、当施設への登録を済ませておきましょう。

病児保育予約サービス
あずかるこちゃん

1 あずかるこちゃんから施設を予約

2 医療機関を受診して用紙に記入

3 施設入室

施設への登録 2024年10月1日(火)から

利用の予約 2024年11月1日(金)から
11月1日分の予約申し込みは10月31日(木)12:00から

病児保育室 びよんびよん

和歌山県和歌山市秋月482-1 ☎ 073-476-2312

- ・県ウェブサイトの改修提案

保護者が利用までの流れを直感的に把握できるよう、構成の改善を提案

- ・県広報番組「きのくに 21」での紹介

「きのくに 21」において病児保育の ICT 化を取り上げ、広域的な周知を実施

<https://www.youtube.com/watch?v=FDQ8ibXAPS0&t=1005s>

3. 実証事業（病児保育施設の ICT 化）の効果分析

（1）利用率について

本実証事業においては、県内 7 つの病児保育施設のうち、5 つの施設に「あずかるこちゃん」を導入し、施設の利用率向上を図った。導入施設は、下記 No1～5 の施設である。

No	所在市町村	名称	実施場所		定員	ICT化
1	和歌山市	病児保育室ぴよんぴよん	診療所	月山チャイルドケアクリニック	6	○
2	和歌山市	せせらぎの病児保育	診療所	せせらぎクリニック	6	○
3	有田市	病児保育室「きらりん」	病院	有田市立病院	3	○
4	御坊市	病児保育室ひまわり	病院	北出病院	6	○
5	田辺市	にじ色ひろば	診療所	あかちゃんとかどものクリニック「Be」	9	○
6	有田川町	病児保育室こぐまクラブ	診療所	平山こどもクリニック	6	-
7	串本町	串本町病児・病後児保育室 ぽけっと	病院	くしもと町立病院	4	-
合計					40	

○ 導入時期：2024 年 10 月

○ 予約開始：2024 年 11 月 1 日

○ 実証期間：2024 年 11 月 1 日～2025 年 2 月 28 日（4 カ月間）

実証の結果、下記のとおり 2023 年度（1 年間）の平均利用率と比較して、実証期間中（4 カ月）の利用率は、県内全 7 施設で 2.7%上昇した。ICT 化施設 5 施設のみで比較しても 2.5%上昇しており、ICT 化が利用率向上に一定程度寄与したことが定量的に示された。

なお、ICT を導入した御坊市の「病児保育室ひまわり」では大幅な利用率の低下が見られたが、施設への確認によると原因は特に思い当たらず、また、実証期間に限らず 2024 年度全般で利用件数が減っていることから、ICT 化が利用件数減少の要因とは考えにくいとのことであった。

No	所在市町村	名称	ICT化	利用率			
				2023年度	実証期間	増減率	KPI
1	和歌山市	病児保育室ぴょんぴょん	○	48.4%	65.4%	+17.0%	
2	和歌山市	せせらぎの病児保育	○	36.5%	46.7%	+10.2%	
3	有田市	病児保育室「きらりん」	○	21.8%	24.2%	+2.4%	
4	御坊市	病児保育室ひまわり	○	55.7%	37.9%	-17.8%	
5	田辺市	にじ色ひろば	○	67.6%	70.3%	+2.7%	
6	有田川町	病児保育室こぐまクラブ	-	47.8%	54.4%	+6.6%	
7	串本町	串本町病児・病後児保育室 ぼけっと	-	6.7%	2.9%	-3.8%	
全病児保育施設（7施設）の平均利用率				46.6%	49.3%	+2.7%	50.0%
ICT化施設（5施設）の平均利用率				51.9%	54.4%	+2.5%	

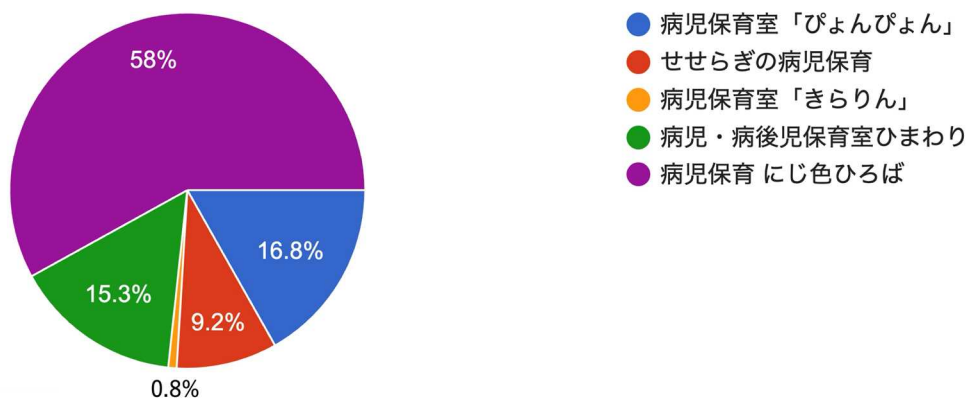
（２）保護者アンケートについて

病児保育施設を利用した保護者を対象に、スマホから回答できるアンケート調査を実施した。

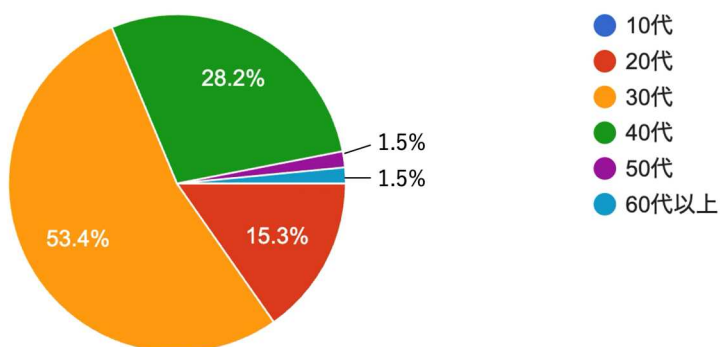
- ・対象者：「あずかるこちゃん」から予約し、病児保育室を利用した方
- ・調査期間：2024年11月1日～2025年1月31日
- ・対象者：413人
- ・アンケート返答数：131（回答率：31.7%）

① 回答者の基本情報

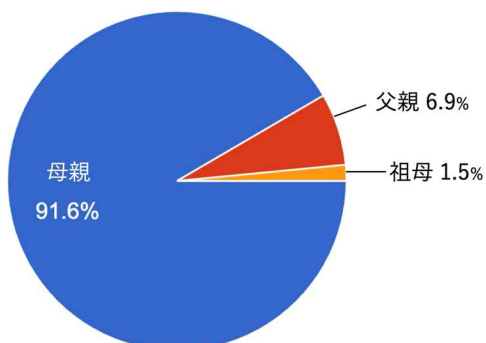
今回利用した施設名を教えてください



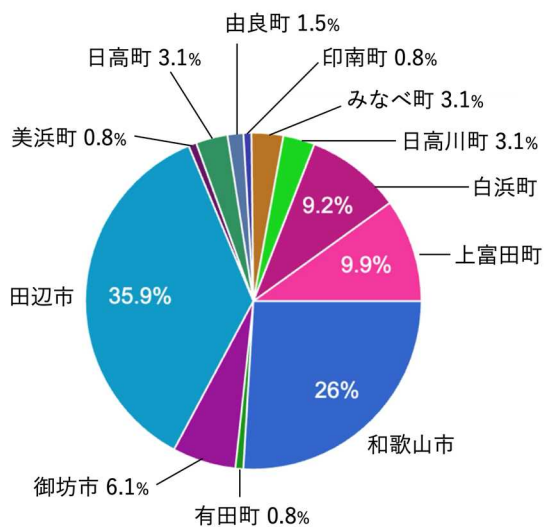
あなたの年齢を教えてください



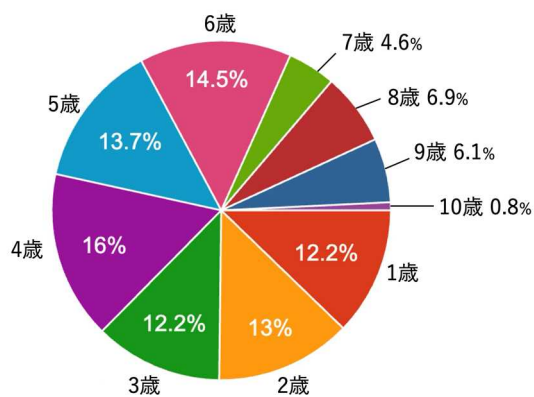
あなたとお子様の関係性を教えてください



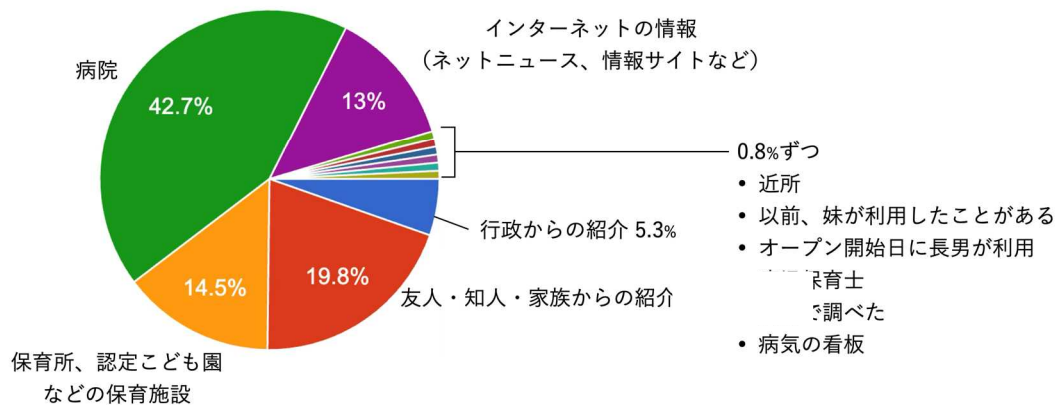
あなたの居住市町村を教えてください



利用したこどもの年齢を教えてください



病児保育事業を知ったきっかけ



〈分析〉

- ・利用した施設と居住市町村は連動しており、今回、田辺市の施設である「にじ色ひろば」が約 6 割を占めたことから、居住市町村も田辺市周辺からの回答が多い結果となった。
※田辺市の「にじ色ひろば」は、みなべ町、白浜町、上富田町の住民も利用できる。
- ・回答者の年齢は、最も多いのが 30 代（53.4%）、次いで 40 代（28.2%）、20 代（15.3%）となった。病児保育施設の利用者に年齢の偏りはみられなかった。
- ・回答者のこどもの年齢は、0 歳児の利用はなく、1 歳～6 歳児はほぼ同じ割合となっており、7 歳児以上の利用は比較的少なかった。
- ・回答者は母親が 91.6%と圧倒的に多く、父親の子育て参加が望まれる結果となった。
- ・病児保育事業を知ったきっかけは、病院が 42.7%と半数近くを占め、次いで友人・知人・家族からの紹介（19.8%）、保育所、認定こども園などの保育施設（14.5%）という結果となった。このことから、病児保育事業を周知するには、病院や保育施設にリーフレットを配付するなどの広報活動を行い、その後は利用者の口コミに期待するのが効果的であることが推察された。

② ICT 化への評価

■ 友人や知人へのお勧め度（NPS）

「あずかるこちゃん」を友人や知人にどの程度勧めたいか、「Net Promoter Score」（略称：NPS）を用いて分析した。NPS とは、顧客ロイヤルティ（商品やサービスに対する信頼・愛着）を測る指標として企業マーケティング等で用いられている手法である。製品やサービスを友人や知人にどの程度勧めたいかを 0～10 の 11 段階で評価してもらい、その回答に基づいて顧客を 3 つのグループに分類し、「推奨者」の割合から「批判者」の割合を引くことで算出される。

○ 顧客の分類

- ・「推奨者」：9 または 10 と回答した顧客。ロイヤルティが高く、積極的に他者に推奨してくれる可能性が高い。
- ・「中立者」：7 または 8 と回答した顧客。満足はしているものの、熱狂的ではなく、競合他社に乗り換える可能性もある。
- ・「批判者」：0 から 6 と回答した顧客。不満を抱えており、悪い口コミを広げる可能性が高い。

○ NPS の計算

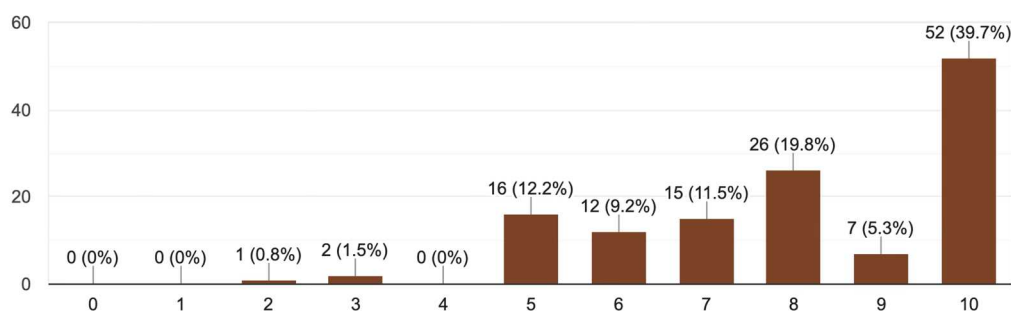
NPS = 「推奨者の割合 (%)」 - 「批判者の割合 (%)」

※「中立者」の回答は計算には含めない

○ NPS の評価

NPS が高いと、製品やサービスを推奨してくれる推奨者が多いということになるため、製品やサービスの周知広報が進み、結果として利用率の向上や売上増加につながる。NTT コム オンラインが実施している NPS ベンチマーク調査では、業界トップ企業は NPS が 0 から -20 前後、業界平均は NPS が -30 から -40 前後となっている。平均がマイナスということに疑問があるかも知れないが、これは日本の特徴で、日本人は中間回答を好む傾向があることから、中間回答の「5」（どちらでもない）を回答される方が多く、その分「批判者」の割合が高まるためである。

あなたは病児保育ネット予約サービス「あずかるこちゃん」を友人や知人に、どの程度勧めたいと思いますか？



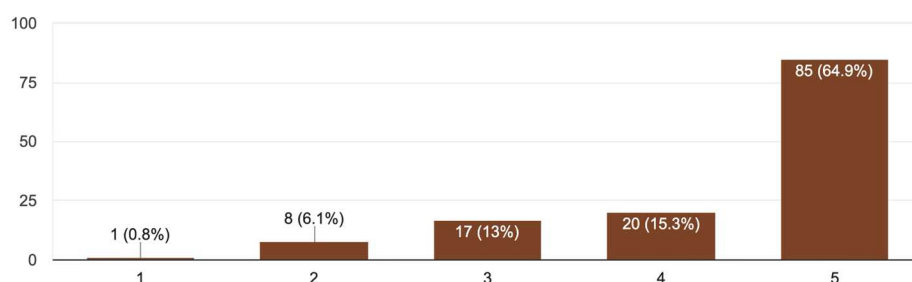
NPS = 45.0 (推奨者) - 23.7 (批判者) = 21.3

本実証事業における「あずかるちゃん」に対する NPS は上述のとおり 21.3 とかなり高い評価となっており、今後の利用率向上につながる事が期待される。

■ 施設への利用登録のしやすさ

「施設への利用登録がしやすい」という問いに対して、「紙の方が思う」を 1 とし、「ネット予約の方が思う」を 5 とし、5 段階で評価してもらった。80.2%の方（4 と 5 の合計）がネット予約を支持するという結果となり、ICT 化への高い評価を得ることができた。

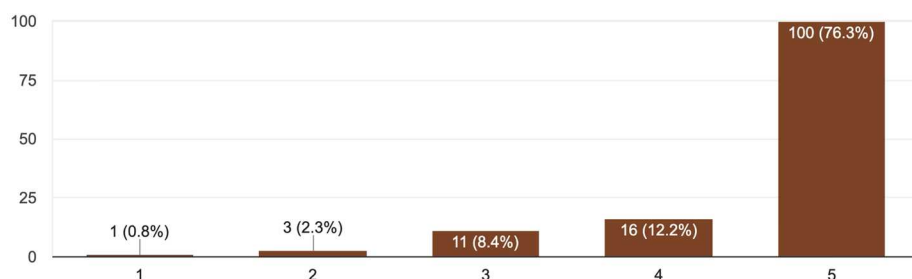
施設への利用登録がしやすい



■ 空き状況の確認のしやすさ

「空き状況が確認しやすい」という問いに対して、「電話の方が思う」を 1 とし、「ネット予約で強く思う」を 5 とし、5 段階で評価してもらった。88.5%の方（4 と 5 の合計）がネット予約を支持するという結果となり、ICT 化への高い評価を得ることができた。

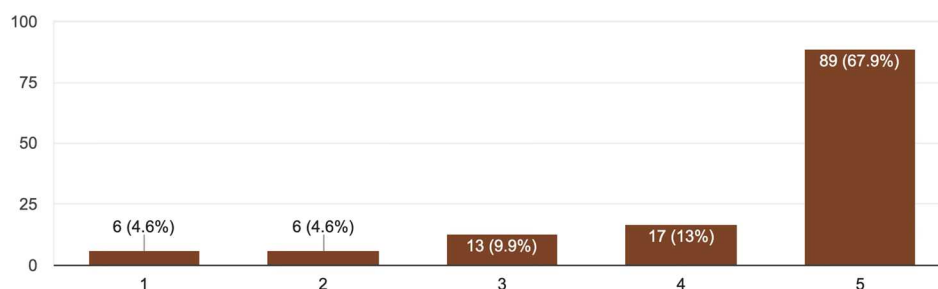
空き状況が確認しやすい



■ 予約のしやすさ

「予約しやすい」という問いに対して、「電話の方がそう思う」を1とし、「ネット予約で強くそう思う」を5として、5段階で評価してもらった。80.9%の方（4と5の合計）がネット予約を支持するという結果となり、ICT化への高い評価を得ることができた。

予約しやすい

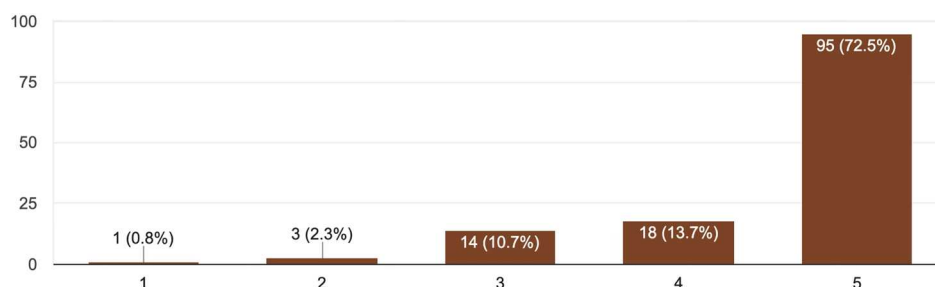


■ 情報管理のしやすさ

「情報を管理しやすい」という問いに対して、「紙の方がそう思う」を1とし、「デジタルで強くそう思う」を5として、5段階で評価してもらった。86.2%の方（4と5の合計）がデジタルを支持するという結果となり、ICT化への高い評価を得ることができた。

* 情報管理とは、こどもの予防接種記録や予約日時等、病児保育施設を利用する際に必要な情報をどのようにして管理するかということである。紙管理の場合は、記録した紙を探す手間がかかったり、取得した情報をメモする必要があるが、ネット利用の場合は、一度入力した情報は原則再入力不要となる。

情報を管理しやすい



〈分析〉

- ・ NPS が 21.3 とかなり高いため、今後、口コミを中心として「あずかるこちゃん」の利用が広まるものと期待できる。
- ・ デジタルサービスを新規導入する際、操作方法の複雑さ等でネガティブな意見が出がちであるが、今回、評価を求めた全ての項目において ICT 化が大きく支持された。
- ・ これらのことから、ICT 化は病児保育施設を利用する保護者にとって非常に有益な施策であり、同施設の利用率向上にも寄与するものと考えられる。

③ 「あずかるこちゃん」に期待すること

本アンケート調査では、「あずかるこちゃん」への意見も募った。選択肢として「複数施設の予約ができるようにしてほしい」、「アプリ化してほしい」、「口コミ機能をつけてほしい」の3つに加え、「その他」による自由記述も求めた。選択肢は複数回答可能とした。

- ・ 「複数施設の予約ができるようにしてほしい」

要望数：33 件（約 25.2%）

電話予約に比べると、デジタル上で複数施設の同時予約ができない点をデメリットと感じる声があった。ただ、電話の場合、利用者が複数施設を予約した上でキャンセル手続きをしないケースもあり、施設側に混乱をもたらす要因となっている。ネットを活用した場合、予約とキャンセルの管理が容易であるため、電話と比べて混乱は少ないものと考えられる。「あずかるこち

ゃん」では、今後 2～3 年をめどに複数施設予約に対応できるよう開発を進めている。

- ・「アプリ化してほしい」

要望数：81 件（約 61.8%）

アプリのダウンロードを負担と感じ、あまり要望はないものと想定していたが、結果は、アプリ化を希望する方が一定程度いることから今後の検討に値するものと考えている。

- ・「口コミ機能をつけてほしい」

要望数：20 件（約 15.3%）

利用者の体験談を参考にしたいというニーズは、他のオンラインサービスと同様に一定の需要がある。ただし、今回の回答では全体の 15%程度と低い割合にとどまった。口コミ機能を導入する際には、利用者のプライバシー保護や施設側の負担など、慎重な検討が必要となる。

- ・「その他」

その他の自由記述は以下のとおりである。

「事前予約を 2 週間前から受付出来るようにしてほしい」

「先の予約まで出来るようになって欲しい」

「少し先まで前もって予約できるようにして欲しい」

「以前はまとめて 3 日分くらい予約できていたが、あずかるちゃんになってから、翌日分しか予約できなくなった。しかもお昼から予約開始のため、工作中には予約できず、仕事終わってからだと翌日分が取れないこともある。」

「数日分まとめて予約出来るようにして欲しい」

「インフルなどだと数日間続けて予約することがあるので、日をまとめて予約できるようにして欲しい」

「施設予約の事前入力ができるようにしてほしい。翌日予約が 12 時以降となっていたが、仕事で忙しくて入力できないことがありそうなので。」

「予約時の入力項目を、できるだけフリー項目から選択項目にしてほしい
（フリー入力だと手間と時間がかかって大変。せめて前入力した情報を
保存するとかして手間を減らして欲しい）」

「必須入力の部分が多すぎる」

「もう少し入力内容を簡素化してほしい」

「二度手間が多く感じる。」

「前回利用の内容上書き可能にしてほしい」

「記述を減らし、できるだけ選択にしてほしい」

「今までの紙ベースよりもとても便利なので、これからも宜しく願い致します！」

「施設の利用に当日のあさ電話しなくてもいいようにしてほしい」

「入力・送信済みの情報を打ち出し(印刷)できる機能」

「予約を 24 時間いつでもできるようにしてほしい。」

「料金が分かりやすく知りたい」

「子供の昼寝の時だけで良いので写真をアップして欲しい。もちろん許可した家庭の子だけで良いです。」

④ 病児保育事業に期待すること

本アンケート調査では、病児保育事業への意見も募った。選択肢として「もっと定員を増やしてほしい」、「もっと施設を増やしてほしい」、「居住地以外の施設も利用できるようにしてほしい」、「どの施設でもネット予約できるようにしてほしい」、「利用料金を安くしてほしい」の5つに加え、「その他」による自由記述も求めた。選択肢は複数回答可能とした。

- ・「もっと定員を増やしてほしい」
要望数：85 件（約 64.9%）
- ・「もっと施設を増やしてほしい」
要望数：97 件（74.0%）
- ・「居住地以外の施設も利用できるようにしてほしい」
要望数：8 件（6.1%）
- ・「どの施設でもネット予約できるようにしてほしい」
要望数：20 件（15.3%）

- ・「利用料金を安くしてほしい」

要望数：28 件（21.4%）

〈分析〉

- ・定員や施設の増加を望む声が圧倒的に多く、まずは病児保育施設自体を増やす必要があるという結果になった。他方、平均利用率はまだ 50%を切っている状況であることから、感染症の流行期等、一定の時期に集中してニーズが発生しているものと考えられる。施設を増やすにあたっては、既存施設の利用率を向上させ、病児保育事業が安定的に運営できる状態を作る必要がある。上述のとおり、ICT 化は施設の利用率向上に寄与するものであることから、積極的に推進すべき施策であると言える。
- ・居住地以外の施設利用、すなわち広域化へのニーズはまだ高くない。これは、御坊市や田辺市など既に広域利用が実現している地域も含まれていること、居住地以外（例えば勤務地等）の施設への預け入れの経験が無くイメージが沸いていないことなどが原因であると推察される。実際に広域化が実現され、例えば勤務地の施設が利用できるようになれば、その利便性を実感して頂けるものと考えている。
- ・どの施設でもネット予約できるようにしてほしいというニーズも高くない。これは ICT 化を望んでいないわけではなく、回答者にとっては、現在利用している施設が既にネット予約可能となっていることから、他施設の ICT 化までは望んでいないということであろう。問いの立て方が適切でなかったと考えられる。
- ・利用料金の引き下げのニーズも高くないが、一定程度はある。適切な利用料金はどの程度の水準なのか、今後検討する必要がある。

- ・「その他」

その他の自由記述は以下のとおりである。

「もう少し早めの時間から利用できるようにしてほしい」

「利用時間の拡大、または、早朝対応」

「前日予約ではなく、数日前予約もできるとありがたいです」

「少し先まで前もって予約できるようにしてほしい」

「2歳児以上はマスク必着用との事です、我が子は2歳になりたてでのインフルでマスクをすることが出来ず。結果預かってもらえなくて仕事を休むことになりました。」

「さらに定員が増えたり、働いていない親でも親の体調不良時などに依頼できるようになれば良いと思います。」

「前後30分延長してくれたら仕事遅刻せず定時まで働けるので助かります。ただ現状すごく助かっているので満足です。」

⑤ その他自由コメント

本アンケート調査では、病児保育についての自由コメントも求めた。非常に多くのコメントを頂き、病児保育への期待の大きさを感じ取れた。コメントに関する分類分析は以下のとおり。

- ・感謝・満足の声：26.7%

(例：「とても助かっています」「安心して預けられる」など)

- ・施設数・定員の不足：17.8%

(例：「施設を増やしてほしい」「定員が少なすぎる」など)

- ・予約の不便さ：22.2%

(例：「前もって予約したい」「予約を複数日取りたい」など)

- ・システム・使い勝手の改善要望：13.3%

(例：「診療情報提供書のアップロードが分かりにくかった」「受付に時間がかかる」など)

- ・料金・補助に関する意見：8.9%

(例：「補助を増やしてほしい」「町外も同じ金額にしてほしい」など)

- ・その他：11.1%

(特定の施設への意見、学級閉鎖時の対応など)

具体的なコメントは以下のとおりである。

「いつも大変お世話になっています。近くに祖父母もおらず、体調を崩しやすい子どもの世話をするとどうしても仕事が休めず、困っています。」

丁寧に見ていただける病児保育は、子どもも行きたがるくらいお気に入りです。いつも本当にありがとうございます。これからもよろしくお願いします。」

「久しぶりの利用でしたが、空き状況などがこのシステムだとわかりやすかったです。また、夜間の発熱などは、時間外で予約できるのもありがたいです。」

「仕事が休めないときに利用させてもらってます。すごく楽しく1日を過ごせるみたいで、お迎えに行くと笑顔でたくさんお話してくれます。細かく保育記録も書いていただけて、親も楽しく読ませてもらってます。」

「いつもありがとうございます。すごく助かっています。」

「いつも大変助かっているのですが、なにぶん施設数と定員が少なすぎて、特に感染症の流行時などは予約が取れず困っています。ご検討のほどお願いいたします。」

「午睡が必要でない年齢と午睡が必要な年齢と同室にするのは流石に保育面でどうなのかと思います。また、和歌山市は病児保育の施設が圧倒的に少なくファミリーサポートセンターもボランティアの人数も少ないためこのままでは育児と仕事の両立が出来ず子育てしにくい街となり人口減少に繋がります。早期の解決をお願いします」

「施設が少なすぎて結局仕事を休まざるを得ない状態になってしまうので施設の増設を早急をお願いします」

「いつも病児保育室にはお世話になっています。今回初めてあずかるこちゃんを利用しましたが、診療情報提供書のアップロードが分かりにくかったです。（これから受診予定で登録した時、一度登録したものを変更する）追加の方がわかりやすい？」

「初めて利用しましたが、とても助かりました。診察もしてもらえて、薬も出してもらえて、仕事をしているので助かります」

「いつも大変お世話になっております m(_ _)m」

「いつもお世話になっているので、これからも宜しくお願い致します。」

「現在8歳の第一子の頃から利用しています。もちろん第二子第三子も利用していますが、周りの友人、保護者たちにあまり知られていません。知っていても利用している方は少ないです。各家庭の考え方で、病気の時ぐらい保護者が看病してあげたいという考えもあるでしょうが、周知されてい

ないことも多く感じています。とてもいい試みなのに勿体なく感じています。周知されて、こちらが利用しにくくなるのも困りますが...」

「働くママとしてはとても助けられています。時間や施設と職場の距離で預けることを諦めている方は多いなとも感じています」

「仕事が休めない時に利用させていただき、大変助かりました。先生方も素敵な方ばかりで次回も利用したいと思います。ありがとうございます。」

「シングルマザーなのでほんとうに助かってます。」

「いつも、本当に助かってます。もう少し人数多く預かって頂ければ尚更有り難いです。」

「乳幼児の頃から、現在も大変遅いなっております。完全核家族の我が家にとって、病児保育はなくてはならない存在です。ですので、ぜひもっと、利用できる施設や受け入れの人数を大幅に増やしていただければと思います。よろしくお願いします。」

「利用できる病児保育が少なすぎます。今後増えてくれることを期待しています。」

「いつも大変助けられており、感謝しております。その分、もっと枠が増え予約しやすくなれば嬉しいなと思います。」

「少し先まで前もって予約できるようにして欲しいです」

「病児保育預かってくださってありがとうございます。お陰で働かせてもらうことができます。」

「周りに頼れる人もおらず働きながら子育てする身としては、仕事を休まずに子供も預かってくれる病児保育は本当にありがたい存在です。季節によっては予約がいっぱいなことも多いのでもう 1、2 箇所利用できる場所が増えたらいいなと思います。」

「母子家庭なので、優先などもあってほしい」

「初めての日、未就学の子どもさんばかりで、小学生は楽しめないかな？と不安になりながら利用させていただきました。お迎えに行くと笑顔で、家に帰るまで車の中でたくさん楽しかった話をしてくれて、こちらもし嬉しくなりました。」

「実際に利用し、仕事に行くことが出来、非常に助かっている。感謝しかないです。」

「にじいろひろばでは、とても丁寧に保育してもらって大変助かっている。あずかるちゃんになって、病児保育施設が増えたのかと期待したが、逆に和歌山県内の病児保育施設の少なさに驚いた。流行性の病気などの時には、定員がいっぱいの事も多いので、もっと定員を増やしてほしい。仮に、他に病児保育施設が増えたとしても、にじいろひろばのように、病院併設でなければ、病気の子を預けるにあたっては不安があるので、病院併設の病児保育施設を増やして欲しい。また、学級閉鎖で、感染はしていないが学校に行けない時が1番困る。感染すれば病児保育に預けられるが、感染している可能性も拭えず、学校を休まなければならない学級閉鎖期間は、うつす可能性を考えると祖父母に預ける事もできない。学級閉鎖期間中の預け先があると大変助かる。」

「町外も全部同じ金額で低額にして欲しい」

「予約を前日の12時からではなく24時間可能にしてほしい。予約も1日分のみでは無く、複数日予約できるようにしていただきたい。勤務中に予約を取るのは困難。ぜひ改善してほしい。」

「マスクなしでも預かりOKなところを増やして欲しいです、マスクが出来なかったから仕事を休まざるを得なくなった。シングルには辛いです。」

「働き始めてから、病児保育はなくてはならない存在です。依頼するエリア内に1箇所しかありませんが、とても親切丁寧な対応なのでありがたいです。」

「人数制限で利用出来ないのは辛い」

「大変助かるシステムです。」

「共働き世帯が増えてる中で病児保育施設が少ないため不便である」

「働いてるお母さんで、病児保育を利用した事がない方も多いかと思うので、広く周知できたらいいなと思います。病院に併設されている病児保育施設は利用しやすいので、連携していただける小児科さんが増えるとありがたいです。」

「いつも大変お世話になり、誠にありがとうございます m(_ _)m」

「仕事を休めない時病児保育でこどもを預かってもらえると本当に助かります。ありがとうございます。」

「両親もおらず、子供が病気の時頼れる人(所)が他にいないので助かっています。」

「良くしてくださるので行くのを楽しみにしており、熱を出したいと言っています。いつもありがとうございます。」

「市から助成金が出るし、仕事に行けるし、子供も楽しかったと言っていたのでとても助かります」

「いつも丁寧に保育して下さってありがとうございます」

「病気になって保育園に行けないと困るので、そういう時に預かってくれるのはありがたいです。」

「子供が産まれてから、年に数回は利用させていただいています。低価格で預かっていただけることはとてもありがたいです。いつも利用させていただくぴよんぴよんさんは、とても細かく子供の状態を記録してくださるので安心して子供を預けて仕事に専念することができます。ただ、利用人数が圧倒的に少ない+日によっては早めのお迎え要請をされることもあり、もう少し利用できる施設や時間帯なども増えて欲しいなと思います。共働き世帯が増える中、いまだに子供が病気をすると仕事を休まざるを得なくなるのは圧倒的に母親です。でも、女性だからといって簡単に休める仕事をしている訳ではありません。休む回数が多くなる程に職場での肩身は狭くなり、続けたくても辞めざるを得ない状況になってしまうこともあるかと思います。少子化対策を本気で考えていただけるのなら、和歌山県に住んでいれば安心して仕事もしながら子供を育てられる。という環境を作っていただきたいです。」

「病児保育の施設を増やしてほしい」

「いつもお世話になり大変助かっています。これからもよろしくお願いします」

「いつもありがとうございます」

「家から近いし凄く助かります」

「保育士さんたちが優しくて子どもが嫌がらずに行けています。私も不安なく働けるのはここの施設のおかげです。インフルエンザ感染などで保育士さんにも感染のリスクがある中、みてもらっています。料金がもっと高くても良いのでその分、保育士さんに還元して欲しいです。」

「いつも本当に助かっています。行政から利用者への補助のみならず、病児保育の運営者に補助が充分になされるようになってほしいです。」

「当日の朝にバタバタすることなく、前日にゆとりを持って準備が出来るようになり、予約サービスの利用がしやすくなりました。ありがとうございます。」

「初めて利用しました。仕事の都合がつかず、助かりました。」

「診察時間から受け付けの時間がとても長い。到着してから預けさせて頂くまで1時間半かかりました。」

「初めて利用しましたが、預け先がなく仕事も多忙で休めずで本当に助かりました！診察もきちんとしてもらえ有り難かったです。」

「仕事が休めず、最近初めて利用させて頂きました。病院併設で安心ですし、スタッフさんたちも親切でとても安心して預けることが出来ました。預ける時には泣いていた子どもも楽しめたみたいで、感謝です。」

「共働きで、祖父母世代も現役で働いていたり、すでに施設入所していたり、頼れるところがない私たちにとっては、なくてはならないものです。ありがたい限りなんです、いずれも保育士不足で預かれる時間が制限されていたり、そもそも施設数も需要に見合っていなかったりというのが現状です。少子化対策の一つとして、病児保育は、安心して就労できる一つの大きなポイントです。ぜひ未来の有権者への先行投資の施策として、お力を注いでいただきたいです。よろしくお願いします。実現のためには、協力させていただきます。」

「仕事でどうしても休めない時、いつもすごく助かっています。」

「朝、8時半の診察だと、初回は諸々の登録などで、10時からの預かりになりました。仕事は、8:30からなので、かなりの遅刻となり、お迎えも16:30と言われました。仕事を休んだ方が良いのかなとか、逆に迷惑なのかなと思いました。完全に仕事に間に合うようには難しいかもしれませんが、病気が続くと3日は最低預かってもらう事になるのかなと思うので、もう少し朝も晩も長く預かってもらえたら良いなと思います。診察が順番待ちで、どんどん遅くなっていく事が不安でした。」

(3) 施設スタッフへのヒアリングについて

ICT化した5つの病児保育施設で働くスタッフに対して、導入による変化や課題についてヒアリングを実施した。概要は以下のとおり概ね高評価であり、全ての施設において、「あずかるこちゃん」を継続して利用する

旨の意向が確認された。電話対応が減少し、大切な入室や退室対応、保育に集中できる環境が実現できたことに高い意義があったと考える。

■ 電話対応が減少した

- ・ いずれの施設も、電話対応の数は大きく減少して負担が減った（電話がほぼ鳴らなくなった。）。
- ・ 中には、ICT 化前は自宅に施設用の携帯電話を持ち帰り、朝 6 時から対応していた施設もあったが、同運用が不要となったため、施設外での負担軽減にもつながった。
- ・ 電話で「朝、何時まで待てるか？」のような細かな対応をしており負担が大きかったが、ICT 化後は受け入れ判断時には利用希望のなくなった方はキャンセルされているため、負担が減った。
- ・ 予約電話が減少したため、入室、退室対応、保育に集中できるようになった（受け入れ対応時の電話には「後で電話します」という対応も多く負担だった。）。

■ スタッフ間の情報共有が円滑になった

- ・ システムで情報を確認でき、メモを記載できるため、離れた場所のスタッフを含めて情報の共有がしやすくなった

■ 自由な時間に予約等の状況を確認できるようになった

- ・ （交代勤務の施設）これまでは事務員からの連絡でしか把握できなかった予約状況が、個人端末から確認できるようになった。自分の出勤や退勤時刻を自身で決定できるわけではないが、事前に出勤想定や準備ができるようになった。
- ・ 自宅からシステムにアクセスできるため、施設が定めた受け入れ判断の時間に関係なく、自由な時間に繰り上げ操作ができるようになった。

※本システムはクラウドサービスであり、端末に個人情報は保存されない。万一、個人端末の盗難紛失があった場合に備えて、端末のロック状況なども事前に確認した上で施設外からのアクセス許可を行っている。

■ 入室時の保護者の負担が減少した

- ・入室時に保護者が持参する紙書類が少ないため、保護者の負担が減少し、また事前に情報確認できるため、入室が非常にスムーズになった。

(課題と考えられる意見)

- ・たまに電話での問い合わせがある（負担にはなっていない。）。
- ・ネット予約を知らない方が電話予約され、ネット予約を案内したところ、当日が満室だったこともあり、予約されなかったケースがあった。
- ・「あずかるこちゃん」の登録にまだ慣れていない方がいる。
- ・診療情報提供書を添付されない利用希望者がいて、添付がないと予約申込順と受け入れ判断の順番が変わるため、申し訳ない気がする。
※診療情報提供書の添付がない方に、システム内及び予約申し込み完了メールで、添付を促す機能を 2025 年 4 月にリリース予定。
- ・自動確定により、想定していなかった子どもが確定されることがある（具体的には受診日が 2 週間前などの過去のものや加配が必要な子どもなど。）。
- ・特に課題はないという施設や、課題が発生してもサポート窓口に問い合わせをして、疑問点は都度解消できているという施設もある。

4. 今後の展望

今回の実証事業においては、デジタルを活用した病児保育施設の利便性向上と利用率向上を実現できた。「あずかるこちゃん」を導入済みの5施設では、継続して「あずかるこちゃん」を利用することとし、必要となるランニングコスト（月額利用料金 2.75 万円）は各施設が負担する予定である（※一部には実質市町村からの委託料が充当されることとなる。）。

岩出市の乳児院併設施設が病後児対応型から病児対応型へ移行したため、残り3つの病児保育施設についても ICT 化を目指して、引き続きサポートを行う。県（こども未来課）においても 2025 年度に限りシステムの導入に係る補助制度を創設し、ICT 化を推進する予定である。

本実証事業をきっかけとして、県では、病児保育の ICT 化及び広域化に本格的に取り組むこととし、併せて関心を高めるための広報活動を行うことで、更なる利用率の向上を図り、子育てしやすい環境の実現を目指すこととしている。

（2025 年度における病児保育の ICT 化・広域化）※県事業

① 病児保育の広域化の合意形成に係る調整

市町村及び病児保育施設の合意を得た上で、2026 年度から病児保育の広域化を開始できるように、調整を実施。

② 病児保育の ICT 化・広域化に係る広報

病児保育の ICT 化・広域化をより多くの県民や病院関係者等に認知してもらうため、広報（リーフレット・ポスターの作成等）を実施。

③ 和歌山県「病児保育シンポジウム」の開催

行政、病院関係者、県民等がそれぞれの視点から、病児保育への関心を更に高めるため、シンポジウムを開催。

④ 病児保育の新規開設支援

県内の病児保育施設を増加させるための取組として、市町村と連携した民間病院等向けの説明会や個別支援などの新規開設支援を実施。

⑤ 病児保育の ICT システムの導入に係る補助金（2025 年度に限る）

病児保育施設における導入費の負担なく、病児保育事業の業務（予約・キャンセル等）の ICT 化を行うためのシステム導入に係る補助を実施。